

1：尿が出にくい、尿がでない（尿閉）

男性の場合は50歳を過ぎると、尿が出にくくなります。

原因としては**前立腺肥大症**がもっとも多く、60歳では

20～50%に見られるという報告があります。ただし、治療する方は一部です。

他の原因として**前立腺がん**や脳梗塞の後遺症や糖尿病などに

よる**膀胱機能低下**によるものがあります。

>> 受診していただくと検査となります。

まず**検尿**で、尿に異常（出血、感染）がないかをチェックします。

その後、**腹部超音波**にて**前立腺の大きさ**（正常は約20ml）や**残尿**（排尿直後の膀胱に残っている尿の量：正常は100ml以下）を測定します。

同時に、超音波で腎臓、膀胱に腫瘍や結石がないかも検査します。疑わしい時には、前立腺がんの腫瘍マーカーの**PSA**も調べることもあります。

>> 治療は生活指導（アルコールの制限など）、**内服薬**、**内視鏡手術**、尿閉時は一時的なカテーテルによる導尿などとなります。

1：尿が出にくい、尿がでない（尿閉）

前立腺肥大症の病状と治療

原因と頻度：前立腺肥大症の原因は明らかになっていないが、加齢による変化であり、45歳ころから見られる良性の腫瘍である。人間以外では犬など少数の動物で報告がある。60歳男性（前立腺は女性には存在しない）の発生頻度は20-50%と言われる。

症状：膀胱からの尿の出口である尿道を囲んでいるので、前立腺肥大症により尿道を圧迫して尿を出にくくする。前立腺肥大症の症状を評価するための、国際前立腺症状スコア（IPSS：下記参照）がある。

評価：検尿をして感染がないか、腹部超音波で、前立腺の大きさ（20mlが正常値の目安）や残尿（排尿直後の膀胱内の尿量：50mlが目安）を測定し、尿流測定（機械で勢いを調べる）を行って病状を評価する。前立腺がんが疑わしい時は血中PSAを測定する。

治療：内服薬にて治療を行う。内服が無効の時や、尿閉や感染を合併する時は手術（内視鏡にて尿道から切除や摘出）を考える。

1：尿が出にくい、尿がでない（尿閉）

IPSS

国際前立腺症状スコア (IPSS: International Prostate Symptom Score)

どれくらいの割合で次のような症状がありましたか？	全くない	5回に1回の割合より少ない	2回に1回の割合より少ない	2回に1回の割合くらい	2回に1回の割合より多い	ほとんどいつも
まだ尿が残っている感じがありましたか	0	1	2	3	4	5
この1ヶ月の間に、尿をしてから2時間以内にもう一度しなくてはならないことがありましたか	0	1	2	3	4	5
に尿が何度もとぎれることがありましたか	0	1	2	3	4	5
この1ヶ月の間に、尿を我慢するのが難しいことがありましたか	0	1	2	3	4	5
この1ヶ月の間に、尿の勢いが弱いことがありましたか	0	1	2	3	4	5
めにお腹に力を入れることがありましたか	0	1	2	3	4	5
	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
この1ヶ月の間に夜寝てから朝起きるまでに、ふつう何回尿をするために起きましたか	0	1	2	3	4	5

スコア 点

QOLスコア

	とても満足	満足	ほぼ満足	なんともいえない	やや不満	いやだ	とてもいやだ
現在の尿の状態がこのまま変わらずに続くとしたら、どう思いますか	0	1	2	3	4	5	6

スコア 点

IPSS	
0～7点	軽症
8～19点	中等症
20～35	重症

QOLスコア	
0～1点	軽症
2～4点	中等症
5～6点	重症

1：尿が出にくい、尿がでない（尿閉）

1B. 尿閉

膀胱にある尿が尿道から出ないことを**尿閉**と言い、**前立腺肥大症**や**前立腺がん**、**脳梗塞の後遺症**などの膀胱機能低下、外傷性**尿道狭窄**などで見られます。一方、腎炎などの腎機能障害で腎で尿が作られない場合や大腸がんの両側尿管浸潤などで尿が膀胱まで流れない場合は**無尿**と呼びます。前立腺肥大症の方がお酒を飲んだあと、かぜ薬を飲んだ後などに、急にお腹が張ってきて、尿をしたいのに尿が出なくなり、痛くて救急車で来ることもあります。尿道から細いチューブを膀胱まで挿入して、尿を出します。これを**導尿**と言います。慢性的に知らずに少しでも尿が溢れて出てくるのを**溢流性尿失禁**と言います。